

「福翁自伝」「講孟余話」「ドラゴン桜」を読んで

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 皆さんもご承知だと思いますが、10月27日の月曜日から2週間は「読書週間」になっています。今はその真っ只中ですので、学校や学習塾、予備校の熱心な先生方がよく読んでいる本を3冊紹介させていただきます。
1冊は、福沢諭吉が著した「福翁自伝」です。福沢諭吉は慶應義塾の創始者です。私は慶應義塾大学を出ていますので、福沢諭吉のことを先生と呼ばせていただいています。福沢先生が書かれた自叙伝の「福翁自伝」をまずはお勧めします。2冊目は、吉田松陰が著した「講孟余話」です。これは中国の思想家である孟子の教えを中心に書かれたものです。3冊目は「ドラゴン桜」です。
3. 最初に紹介させていただいた福沢先生は、今の大阪大学医学部の前身である適塾で学びましたが、共に学んでいた塾生たちは非常に自由闊達に勉強していました。どれほど自由であったかということの詳細は「福翁自伝」を読んで知っていただきたいのですが、とにかく寝る時間を惜しんで勉強したとのこと。自由闊達な勉学こそが教育の原点であるということのようです。私もその部分は何十回も読みましたが、適塾の塾生たちの勉学ぶりは痛快そのもので、とても参考になります。志を高く持ち、自覚を持った人たちはどのくらい熱心に勉強に励むのか・自分の意志でどれほど長い時間勉強するのかがよくわかります。ぜひ「福翁自伝」をお読みください。
4. 次に紹介させていただいた「講孟余話」は、吉田松陰が獄中、つまり刑務所の中で同じ囚われの身であった受刑者たちに語ったことや松下村塾で塾生たちに語ったことなどをまとめた本です。それを読むと、松陰がどれだけ深い学識を持ち、また、高い志を持って指導にあたったかが本当によくわかります。この本はいろいろな方々にお話をしたあとにとりまとめたものとされています。また、松陰は早くして亡くなりますが、その遺書である「留魂録」も「講孟余話」といっしょに読んでいただくと、いかに深い学識と高い志を持って獄中の仲間や塾生たちにものごとを語り、明治維

新の礎になったかがよくわかります。

5. 最後に紹介させていただいた「ドラゴン桜」は漫画本ですが、学習塾や予備校の先生・学校の進学担当の先生方の手本となっています。何が手本かといいますと、生徒一人ひとりのレベルに合わせて学習方法を具体的に示し、それらをやり抜かせ、最終的には東京大学に合格させる過程が書かれているからです。そのため、「結果を出す」という学習指導の手順と言いますか、プロセスが、教える立場からすると非常によくわかります。学習指導では、生徒一人ひとりのレベルに合わせてどのように勉強したらよいかを具体的に示し、励ましながらそれを最後まで行わせて結果を出すという手順・プロセスが大事だと思います。小さな課題を与えて達成させ続けるという方法は、前回の放送で紹介した私が担当の宇都宮大学大学院での「とちぎMOT講座」でデュポンの^{あもう}天羽名誉会長から教えていただいた「潜在可能性を引き出す方法」と相通じます。小さな課題を与えて、それらを達成させ続けて一人ひとりの潜在可能性を引き出すという方法は、非常に素晴らしいと思います。

6. これら3冊の本を読むと、福沢諭吉先生が適塾で学んでいたときの自分の意志で長時間勉強するという自己学習、吉田松陰の深い学識と高い志、ドラゴン桜の主人公の桜木先生の小さい課題を与えスモールステップを積み重ねて合格に導く指導方法を参考にしたいなあと思われる方もたくさんいらっしゃると思います。放送をお聴きの皆さんの身近にお子さんや勉強中の方がいらしたら、ぜひこの話をさせていただきたいと思います。今日は「読書週間」の只中ですので、学校の先生や学習塾・予備校の先生が読んで参考にしている本を紹介いたしました。皆さんにも立派な本を読んでいただければと思います。

7. 話は変わりますが、11月6日と7日に足利市で「世界5S(ごえす)サミット」が開かれます。5Sとは、整理・清掃・整頓・清潔・躰の5つのことです。これらをローマ字で表記すると、すべてSで始まるので、5Sと言います。足利市では、足利商工会議所の中にある足利5S学校を中心に、働く人たちの意志を尊重した5S活動が盛んです。足利5S学校は150ぐらいの会社が集まってつくられています。全国で非常に評判になっています。また、海外からもたくさんの方が視察に見えますので、「世界5Sサミット」を開こうということになりました。今回は第2回で、来週の木曜日と金曜日、6日と7日に足利市の地場産センターで開催されますので、関心のある方はぜひご参加いただければ有難いです。私も実行委員の一人を拝命いたしましたので、ここで紹介させていただきます。どうかよろしく願いいたします。